

広報 たかせ

第237号

令和7年2月1日

日田市高瀬公民館

館長 高田 義友

主事 荒倉 寿也

電話 : 24-2705

FAX : 24-4075

令和7年日田市20歳のつどい ～思い出あふれる式典が開催される～

1月12日(日)パトリア日田で20歳のつどいの式典が行われ、今年新たに20歳を迎える597人のうち507人が会場に集まりました。この式典は、3年前から若者自身が企画・運営を行う実行委員会方式で実施されており、参加者にとって特別な思い出となる内容が盛り込まれています。

式典では、実行委員の手によって準備された小中高時代の写真や映像がスライドショーとして上映され、会場は懐かしさと笑顔でいっぱいになりました。友人や恩師との思い出が次々と映し出される中、多くの参加者が歓声を上げ、青春の日々に思いを馳せていました。

また、式典中には地元を代表する来賓の挨拶や、参加者自身によるスピーチも行われ、ふるさとへの感謝の言葉や新たな抱負が語られました。さらに、思い出深いサプライズ演出として、当時の担任の先生からのメッセージが披露されました。この日、会場に集まった507人の若者たちは、仲間とともに新たな門出を祝い、自らの成長を振り返るひとときを過ごしました。ふるさとへの思いとともに、未来への希望を胸に、それぞれの道を力強く歩み始める決意を新たにしました。



第2部の司会を務めた梅木莉奈さんと梅野姫莉さん



ミッキー主事時代のみどりの少年団員たち



高瀬森林組合 山の神を祀る神事を執り行う

1月16日(木)高瀬森林組合の主催により、山の神を祀る神事が厳かに執り行われました。この神事は、山からの恵みに感謝し、今後の安全と豊かな実りを祈願する大切な行事で、毎年欠かさず行われています。式典では、森林組合長の長哲也会長をはじめ、地域の代表者が参列し、神職による祝詞奏上や玉串奉奠が厳粛な雰囲気の中で進められました。参列者は皆、自然との調和を願い、山の安全と森林資源の保全に対する思いを新たにしました。神事後には地元の人々が集まり、山仕事への感謝や地域の未来について語り合う場も設けられました。高瀬の豊かな自然を守り、次世代に引き継ぐための意識が一層高まる、有意義なひとときとなりました。



【高瀬の歴史コラム】

第4回 高瀬の古代2～縄文時代

今回は、高瀬の縄文時代の遺跡や生活の様子などを紹介します。

日田では約12000年前の遺跡から縄文早期の石鏃（矢じり）や土器が見つかり、縄文時代がはじまったようです。

旧石器時代は狩猟や採取を行うため、洞窟など拠点となる場所を移動しながら生活を行っていましたが、氷河期が終わったこの時期から定住生活へと移行していきます。また、縄文時代早期にあたるこの時期には、縄文土器が作られ、畑作や狩猟、採取によって得られた肉や木の実を粉にして料理をするようになりました。

高瀬でも**誠和町神社裏遺跡**で約10000年前と考えられる石器片（黒曜石の小片）や縄文早期の土器片（深鉢）が採取され、縄文人の生活の跡がみられます。さらに、**上野切畑山遺跡**（上野町浄水場北側）からは、料理などに使ったと思われる炉の跡（集石遺構の炉）が見つかっています。

縄文時代の人々の生活の場は、畑作の関係からか年代が進むにつれて、五馬台地のような台地から河川の上流地域、そして、日田盆地周辺の河岸段丘へと移住していった形跡がみられます。高瀬の祖先も出野、南部、五条殿などの山地から高瀬川、大山川流域の台地へ、そして上野原などの原（はる）とよばれる河岸段丘へ、さらに現在の誠和町、銭湊町の上、高瀬本町の上などの低位の段丘へ生活の場を移していったようです。さらに、低位段丘面にあたる**手崎遺跡**でも住居跡や**高瀬条里深野田地区**では土壙（イノシシやシカ等を捕る落とし穴）や縄文土器や石器など約4000年前の縄文後期のものが出ています。それまでより標高の低い場所で生活していたことが推測出来ます。

また、手崎遺跡のように、湧水等の条件がそろっている場所では、長期にわたって、繰り返し生活の場として使われた場所もあります。（長期利用型遺跡）

3000年前の縄文時代晩期は、北部九州に稲作が伝わっています。日田も徐々に稲作へと向かうことになったと考えられます。

（文 高瀬史編修委員会 高田義友 / 資料・協力 日田市文化財保護課）



誠和町神社裏遺跡



上野切畑山遺跡



手崎遺跡(大宮町)



高瀬条里深野田地区